

平成 24 年度 第 3 回 JICA コミュニティ防災研修 - JICA Community Based Disaster Risk Management -



研修最終日：閉講式にて

研 修 期 間：平成 24 年 10 月 15 日～11 月 22 日 (6 週間)

研 修 場 所：神戸市/宮城県/和歌山県

研 修 内 容：参加研修員の自国のコミュニティにおける、自然災害に対する防災活動推進方法の習得に関する講義/視察

参加研修員：11ヶ国 19 名 (アルメニア 1、中国 2、フィジー 2、グアテマラ 2、ホンデュラス 2、ラオス 1、ミャンマー 2、ネパール 2、フィリピン 2、パキスタン 2、ソロモン 1)

特別参加者：横浜国立大学のブータン人留学生 1 名

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)からの委託を受け、神戸市消防局と協力のもと、コミュニティ防災研修を実施しました。本研修では、自国で住民主体の防災活動を推進する立場にある 12 か国の中央ならびに地方の行政官・NGO 職員を迎え、神戸市内及び宮城・和歌山にて 6 週間の研修を行いました。

本研修は、自然災害に対する防災の重要性、中でも住民主体の自主防災組織を通じた地域コミュニティの防災力向上について学ぶことを目的としています。研修では、神戸における取組みの代表的な例として「防災福祉コミュニティ¹」を取り上げました。防災福祉コミュニティでは、メンバーによる日ごろの地域活動で培われた団結力や訓練などで学んだ防災知識を災害時にも活用できることを目指しています。災害緊急時には行政による「公助」を待つのではなく、住民が互いに助け合いながら自分達の地域の安全を守るという「自助」「共助」が何よりも重要となるからです。

研修員は、「防災福祉コミュニティ」を中心に、神戸市が取り組む市民向けの防災に関する普及の取り組みを学びました。市外の視察先としては、2011 年 3 月の東日本大震災で津波の被害を受けた宮城県と、津波に備えた防災普及活動を行う和歌山県広川町、田辺市を訪問しました。また、研修修了前には神戸市長を表敬訪問し、矢田市長からも励ましの言葉をいただきました。研修最終日には、滞在中の講義・視察を通じて考察した自国のコミュニティ防災のあり方、市民への普及促進策についての内容発表を行いました。

¹：防災福祉コミュニティは阪神・淡路大震災の教訓をもとに生まれた神戸市独自の防災取組みであり、小学校区ごとに結成された自主防災組織です。安全で（防災）安心して（福祉）暮らせるまちづくりをめざし、防災活動や福祉活動に取り組んでいます。防コミ(BOKOMI)と通称されています。



～研修を振り返って～

今後 35 年以内に必ず起こるといわれている東海・東南海・南海地震、その地震の被害や犠牲者を少しでも減らすため、神戸市をはじめ・日本各地では様々な防災活動が行われています。地震による津波の被害が懸念されているこの地震では、これまでの地震(振動)対策以外にも多角的な防災アプローチが必要とされています。人々への防災啓蒙活動や防災意識を高める取組が必要とされる一方で、一見すると「防災」は「堅苦しい」イメージを持たれがちです。そんなイメージを和らげ、「防災」に対する人々の興味を惹き、関心を高め、災害に対する平常の備えの大切さを知ってもらうため、各地では多種多様な防災活動が開発されています。

研修ではその取り組みの一つとして、災害対応カードゲーム「クロスロード」を紹介しました。このゲームでは、災害時に考えられる様々な状況が書かれたカードが設問として発出されます。参加者はその対応を yes/no で示し、その理由や各自の考えを参加者同士で交換しながら、ゲームを進めていきます。

「あなたは避難所運営担当者です。ペットを連れて避難してきた人がいましたが、許可しますか?」「地震津波から避難している途中、車で避難中の知人が同乗を提案してきました。乗りますか?」 研修員は、災害前・中・後の対応を様々な立場に立って考えることで、広い視点で災害をとらえ、派生が予想される問題やその対応を災害が起こる前に考えることの重要性を理解し、また他の研修員の考えを聞く事で、自分とは異なる意見や価値観を共有することができました。

災害は天災ですが、被害の大きさは人災であるとも言われています。被害の軽減のためには、これまでのように「地震が発生したら机の下に隠れる」のような一辺倒の対応だけではなく、状況を総合的に判断し、その状況に応じた臨機応変な対応をとる「防災力」の必要性が今後ますます高まることが考えられます。「クロスロード」の紹介は、研修員にその気付きをもたらす貴重な講義となりました。

研修では東日本大震災から 1 年半が経過した後の宮城県にも訪問しましたが、そこでもまた同様のお話をうかがいました。「地震(津波)発生時は全てが想定外であり、各々が自分の判断で行動せざるを得ない状況でした。被害の軽減には、災害時の対応について家族や友人と事前によく話し合う事が重要です。」津波による大きな被害を被った南三陸町で、震災の経験を継承する語り部

さんが発する言葉は、一つ一つに重みを感じられます。通訳を介した日本語での講話でしたが、語り部さんの真剣なまなざしを通じて、想いの強さは研修員にしっかり伝わったことと思います。

この他にも、研修指導機関である神戸市消防局の職員はもちろんの事、世界中で防災調査を行う研究者、南海トラフ巨大地震での「犠牲者ゼロ」を目指す防災福祉コミュニティメンバー、数々の子供向け防災イベントを実施する NPO 代表、防災教育に携わる教諭など、研修では活動経験豊かな講師陣を迎え、神戸市で行われる防災活動を紹介しました。数々の講義視察を通じ、研修員は防災について多角的に学ぶと同時に、過去の被災経験を活かし、一人でも多くの命を救いたいという日本の防災に対する力強い想いを感じ取っていただけたのではないかと思います。



自分とは違う意見を聞く事が重要です。



南三陸町・総合防災庁舎にて



防コミ放水訓練にも参加しました！

研修最終日のアクション・プラン発表会では、20名の研修員全員が、日本で学んだ内容が自国にとっていかに有用であったか、そしてそれを自国でどのようにして実践していくかについて、熱心に話してくださいました。世界中で自然災害が多発する現在、研修員が日本滞在中に得た知識・経験を今後それぞれの自国におけるコミュニティ防災推進活動に活かし、一人でも多くの人々が災害から守られることを期待しています。

研修担当：後藤田 路子

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター

研修指導機関：神戸市消防局予防部予防課

講義/視察先：気象庁


ガジャマダ大学(インドネシア)/関西学院大学/神戸学院大学/ 県立舞子高等学校
JICA 青年海外協力隊OB/和歌山県広川町/和歌山県田辺市/神戸市消防局/神戸市
教育委員会/神戸市民防災総合センター/(公財)神戸都市問題研究所/魚崎町防災
福祉コミュニティ/若鷹市民消火隊/ひだまり公園市民消火隊/神戸クロスロード
研究会/(社)南三陸町観光協会/(社)気仙沼鹿折 復幸マルシェ
アジア防災センター/人と防災未来センター/SEEDS Asia/NPO 法人プラス・アーツ/FM わいわい

【順不同、敬称略】



～研修員の声『神戸を訪れて（要約）』～
Participant's Voice 『VISIT TO KOBE』



国名：中国 
名前：Ms. YAN Yan
所属：成都市科学技術局情報部 調査担当

I fell in love with Kobe city at first sight when I saw the blue sky, beautiful night and the nice seaside. During these 40 days training in Japan, I experienced lots of things which give to me deep impression. There have wonderful weather, many kinds of delicious food, convenient traffic, and very friendly people. I still remember that the first day I arrived Kobe, the kind driver of Taxi, the warm smile and greeting from a Japanese lady and many Japanese who helped me a lot.

As one of the participant of JICA programme training, I could have this good opportunity to understand more about Japan and the advanced experience of disaster management in Kobe city. As we know Kobe city has suffered a large earthquake in 1995, but now Kobe city is become one of the most safe city in Japan because they trying their best to establish Disaster management system. I am very appreciating that the Kobe city's contribution is not only for Japanese but also for all human beings. During the training days, the professional staffs and teachers share all their advanced experience in BOKOMI of Kobe city, led us visit different sites of city and we have chance to take part in some drills with community. In particular, we have opportunity to visit Tohoku Prefecture for 4 days, this is my first time to Tohoku, when I trip to Tohoku, I saw so nice view that I never imaged before, sometimes I cannot believe this nice place happened that huge disaster. During this trip, I moved a lot when an old man willing to tell us the experience about his family and community, when lots of volunteers share with us their story, when the community in Kesenuma is trying their best to recovery. It is not easy for them to recall the bad memories again and again, but they would like to share all their experience and stories to us just want more people can be awareness of disaster and know how to protect themselves. I sincerely wish Tohoku will recover soon and have a better future than before.

I would like to thank JICA's efforts when we

stayed in Japan, thank Kobe gave me this nice memory in my life, thank Japan for the contribution to developing countries. Same time, I sincerely wish friendship between China and Japan will be forever and ever.

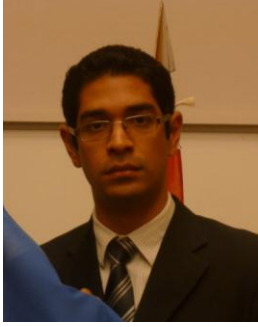


青い空、美しい夜、海を見て、一目で神戸という街を気に入りました。40日間の研修を通じて学んだ多くの事は、私の心に深く印象に残っています。

JICA 研修員として、研修を通じて日本や神戸の防災について学べた事は貴重な機会でした。神戸は 1995 年の地震で大きな被害を受けましたが、独自の防災システム構築によって、今では日本で最も安全な都市のひとつとなりました。神戸は、日本人だけではなくすべての人々に貢献していると思います。

研修では東北を訪問する機会もありました。私にとっては初めての経験であり、最初に東北の美しい光景を見た時は、この素敵な場所が大きな災害に見舞われたという事を信じられませんでした。訪問中は自身の経験を語っていただく語り部や、復興に尽力する気仙沼のコミュニティに出会い、非常に感銘を受けました。彼らにとって過去の悲惨な経験を幾度となく思い出すことは決して容易ではありませんが、一人でも多くの人が災害を意識し、自分の身を守ることができるように、経験のすべてを共有してくださったからです。東北の一日でも早い復興、以前にも増しての明るい未来を願います。

人生の素晴らしい思い出を作ってくれた神戸、JICA、そして途上国へ貢献して下さる日本へ感謝します。同時に、中国と日本の間の友情がこれからも続く事を願ってやみません。



国名：ホンデュラス



名前：Mr. Eduardo Mauricio Gonzalez Rodriguez

所属：中米ケア・インターナショナル 水質・衛生専門家

When I realized that I was going to come to Japan, I started to have many ideas and suppositions that how would be Kobe city and this beautiful country, all these ideas came from what I had saw in the news and many cultural programs but what I found was way much better.

There is no program that can really explain all the goodness of this great city, I am not just talking about the great sense of security or the excellent public transport but the people who live in it. During this training course I have seen how people have recovered from such great disasters like Hanshin-Awaji earthquake. It is very impressive how they have achieved a very high organization level in the neighborhoods, giving extra attentions to elderly. We had many opportunities to observe how BOKOMI has been modeled through the years, learning of the past experiences and adapting to this modern and changing world.

I think that BOKOMI is not just a great way to improve disaster risk management, but it is also a culture; it is also a lifestyle that can help you to save yourself and your family, it is an approach that promote a better relationship among the community's members and generates a more harmonic environment for grow. Therefore comes the importance to work with the children at early levels because they are the future and if we success in transmit this experiences and knowledge they are going to be able to have a more happy and disaster-safe life, I think Japan has already realized about this. That's why it is so important the roll of JICA in our countries because through them, many people have access to this precious knowledge so this approach can be used to improve the life quality of many communities.

At the end I want to take this opportunity to thank to Japan and all the program coordinators for making of this experience a very comfortable and nice memory, I am more than satisfied of my stay in Japan and I go back to my home with a very high esteem for this beautiful country.



来日が決定したとき、私は神戸市・この日本という美しい国がどのようなものかに思いを馳せました。そして実際にこの目で見たものは、ニュースや文化番組で見た以上に素晴らしいものでした。

神戸という街の素晴らしさは、安全性や素晴らしい公共交通機関だけでなく、そこに住む人々にあると言えます。阪神淡路大震災の大きな災害から復興を遂げ、近隣住民との助け合いや高齢者の対応を惜しまない防コミという組織がつけられたという事に強い感銘を受けました。研修を通じて、防コミが過去の教訓を学び、どのように変化し続ける世界に対して適用させてきたか、その変遷を目にする多くの機会がありました。

防コミは防災対策を促進するだけでなく、自分自身や家族を守り、コミュニティの繋がりをはぐくみ、調和のとれた社会を成長させるような文化・ライフスタイルであると思います。その為に必要とされる、未来溢れる子供たちへの経験と知識の継承の重要性、彼らがもたらす幸せで安全な生活について、日本は既に気づいていると感じました。

日本政府、そしてこの研修経験を快適で、良い思い出としてくださった全ての方々へ感謝します。そしてこの日本という美しい国へ、心からの尊敬を胸に、母国へ帰りたと思います。



国名：ブータン



名前：Mr. Yeshey Lotay

所属：住宅文化省(MoHCA)救済再建部防災課 上級エンジニア
(横浜国立大学大学院在学中)

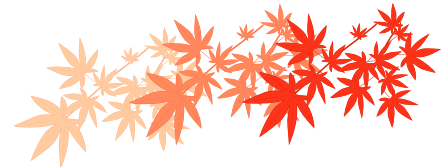
Firstly, I would like to thank JICA Kansai, KIC, Kobe City Fire Bureau and YNU for giving me this opportunity to attend the CBDRM training in Kobe. Kobe city is very beautiful and very different from other cities in Japan. City is located in between sea and mountain, which make the unique beauty of Kobe. I feel homely in Kobe due to the friendly and polite people in Kobe.

I heard about the Great Hanshin-Awaji Earthquake in 1995 when I was in Junior High School in Bhutan but I did not know the extent of damage at that time. After reaching here and learning about the 1995 disaster, I could not believe the damage caused by the Great Hanshin-Awaji Earthquake in Kobe. After attending the Community-Based Disaster Risk Management training, I fully understood the problems faced by the people of Kobe city due the Great Hanshin-Awaji Earthquake. I am very much impressed with the recovery progress in Kobe City within 17 years after the disaster. Also, impressed to see the recovery works with the lesson learnt incorporated in the reconstruction for the future safety. The study of Great Hanshin-Awaji Earthquake helped me to understand the self-help, mutual help and public help importance during-and-after the disaster.

I am very much impressed with the community participation in forming the Disaster-Safe Welfare Community (BOKOMI) after the 1995 disaster lesson. I hope Kobe will be the same and happy city forever. Keep up the Disaster Management Culture spirit.

The visit to Tohoku areas affected by the Great East Earthquake, 2011, I could not believe the Power of the Nature. I hope and pray for the quick recovery. I am impressed, to learn that Kobe rescue team helped and use their lesson learnt from Hanshin Awaji Earthquake in Tohoku areas.

Thank you all and looking forward to see you all with the HAPPY SMILE in the near future.



神戸という街はとても美しく、海と山に囲まれた独自の美観を持ち、日本の他都市とは異なります。優しく丁寧な神戸市の方々のおかげで、神戸を親身に感じることができました。

1995年の阪神・淡路大震災に関しては、中学生の時にブータンで知りましたが、当時は被害の大きさについては知りませんでした。研修を通じて被害の様子を聞き、17年間の復興の歩みを知り、とても感銘を受けました。同時に、将来の安全性までも考えた復興取組についても感銘を受けました。阪神・淡路大震災について知ることによって、災害発生時とそれ以降の自助・共助・公助の重要性をよく理解できました。

また、震災後に設立された防コミにおけるコミュニティの積極的な参加姿勢も印象に残っています。神戸がこれからも防災文化の根付く、幸せな都市であることを願います。

東日本大震災で被害を受けた東北訪問では、自然の恐ろしさが信じられませんでした。一日も早い復興を願い、祈りたいと思います。また、神戸が阪神・淡路大震災の経験を活かし、東北で救援活動を行っていたことを知り、感動しました。

この研修で出会った全ての人々に感謝すると同時に、近い未来、「微笑み」と共に再会できることを楽しみにしています。